【市民フォーラム・シンポジウム報告】

第2回市民フォーラム・第42回シンポジウム開催奮闘記

嶋本 顕 山陽小野田市立山口東京理科大学 薬学部 再生医療学分野

この度は第2回市民フォーラム・第42回シンポジウムの世話人として、学会誌である基礎老化研究に開催終了後の報告記を執筆する機会をいただきました。報告記としてはやや場違いな内容ではありますが、開催に至るまでの経緯を備忘録の意味も込めてここに記したいと思います。

シンポジウム開催のお話をいただいたのは 2020 年 2 月末のことで、2021 年 11 月の開催まで 1 年半以上の準備期間があり、その頃は新型コロナウイルスが世界中でパンデミックを引き起こすことなど想像もしていませんでした。本州西の端にある山口県での開催ということで、遠方、とくに関東方面から来てもらえるかどうかの見極めと、ホテルが少なく公共交通機関が貧弱な山陽小野田市開催では、懇親会の会場に合わせて宿泊地を選定すること、この 2 つが重要なポイントで、おおよそ学術的な話とは掛け離れたことから開催に向けた準備が始まりました。

新型コロナウイルスの感染拡大が国内で顕在化し, 第 1波の訪れとともに全国各地の大学ではオンラインによ る 2020 年度前期の授業が始まる中、多くの学会が中止 を余儀なくされ、第43回日本基礎老化学会大会も誌上 開催となりました。そして2020年度後半には学術大会 をオンラインで開催する学会が出始め、とくに地方大学 から見るとオンラインによる開催は大都市圏への移動の 煩わしさから開放され、 気軽に参加できるというメリッ トから多くの研究者に歓迎され一定の役割を担っている ように思われます。そのような状況において山口でのシ ンポジウムの開催形態を模索する中で, 第3波の始まり にあたる 2020 年 11 月に松本市で開催された記念すべき 第1回市民フォーラムで講演する機会をいただきまし た。人数制限がかかる中50名以上の参加者が集まって 議論し、準備された懇親会で多くの学会員が活き活きと 老化研究の話に花を咲かせ、近況を語り合う姿を目の当 たりにして、山口でのシンポジウムでは次の3つの目標 を掲げて開催することを心に決めました。

・日本基礎老化学会から山陽小野田市民に向けて健康

連絡先:嶋本 顕

〒 756-0884 山口県山陽小野田市大学通 1-1-1

TEL: 0836-39-9178

E-mail: shim@rs.socu.ac.jp URL: http://www.socu.ac.jp 啓発メッセージを送る。

- ・山口県から西日本の基礎老化研究を発信する。
- ・ 西日本の基礎老化研究者と日本基礎老化学会の交流 を図る。

山口に戻ってからは第2回市民フォーラムと第42回 シンポジウムを山陽小野田市で一挙に開催することを念 頭に、11月の開催に向けて2021年の年明けから山陽小 野田市と協議を開始しました。山陽小野田市は「心身の 健康」を保ち笑顔で年を重ることを目標とする「スマイ ルエイジング」を施策として掲げ、2018年から毎年「健 康で長生きのまちづくりフォーラム」を開催しており, 同年に薬学部が開設された山口東京理科大学も、共催と して企画から講師の選定まで運営に参加していました。 そのような経緯から極自然の流れで第2回市民フォーラ ムが山陽小野田市の健康で長生きのまちづくりフォーラ ム 2021 と共同開催となり、「人生 100 年時代の健康意識 in 山陽小野田」をテーマとして、「スマイルエイジング」 へ向けた4つの取組みである"知守", "食事", "運動", "交 流"を盛り込んだ第2回市民フォーラムが企画されまし た。

一方,第42回シンポジウムでは、学部と研究科の垣根を超えて健康長寿研究拠点を展開する広島大学と、健康長寿代謝制御研究センターを大学院生命科学研究部にもつ熊本大学、そして2020年当時研究推進機構に老化研究拠点を構えていた本学から、学会員であるかに関係なく講師の先生方を選出しました。そして、昆虫からマウス・ヒト、そして基礎から臨床に至るまで幅広く老化研究に触れることができる機会となるよう、本学の共催、そして広島大学と熊本大学の後援として第42回シンポジウムが企画されました。

1年延期された東京オリンピックの開催とともに、新型コロナウイルスの変異株による感染拡大の第5波が押し寄せた8月は、この山陽小野田の地に講師の先生方を招いた現地開催を目論み、オンライン開催では意味がないと考えていた私にとっては実に受け入れがたい現実でした。しかし周りを見渡せば、8月、9月に開催された学会はどこもオンラインと現地のハイブリッド開催とは言え、発表演者のほとんどがオンラインで講演するという、実質的にはオンライン開催でした。そしてコロナ禍で市民フォーラムも中止にならざるを得ないような状況では、当初掲げていた3つのうち「山口県から西日本の基礎老化研究を発信する」ことだけがオンラインで辛う

じて実現できる目標でしたので、講師の先生方と学会員の皆様には現地に来ることなく気軽に参加してもらうよう、現地参加も可能なオンライン開催に切り替えました。その後、ワクチン接種の普及がすすんだこともあってなのか、9月の半ば頃から奇跡的に感染者数が減少し、11月27日(土)と28日(日)の2日間に渡って第2回市民フォーラムと第42回シンポジウムを開催することができました。

27日の第2回市民フォーラムでは山陽小野田市の広報活動の尽力もあり、山陽小野田市民館で実に200人以上の参加者を数えました。山陽小野田市の藤田市長と日本基礎老化学会の石神理事長の挨拶の後、国立長寿医療研究センターの清水孝彦先生から『知っておきたい老化の仕組み』、山口大学精神科神経科の中川伸先生から『健康長寿社会におけるメンタルヘルス』、順天堂大学スポーツ健康科学研究科の町田修一先生から『筋力アップで延ばす健康寿命~今からでも遅くない筋肉づくり~』、そして国立長寿医療研究センターの丸山光生先生から『知っておきたい高齢者の免疫と栄養の関係、健康長寿への道』と題してお話しいただき、山陽小野田市民の中に人生100年時代に必要な健康意識が高まったところで、盛況のうちに閉会することができました。



画像 1:休憩時間に SOS おきよう体操をする山陽小野田 市民の皆さん(第2回市民フォーラム)

翌28日の第42回シンポジウムでは現地開催が本学の学生を含めて30名程度、そしてオンラインで30名程度の参加者を数え、熊本大学から3名と広島大学から1名の講師の先生方にはオンラインで、広島大学と山口大学からそれぞれ1名と本学から3名の講師の先生方には現地で、最先端の興味深い基礎老化研究成果についてご講演いただきました。質疑応答ではオンラインのQ&A機能も駆使して現地とオンラインを結んでの議論が活発に交わされ、これまでと同様に質が高く内容の濃いシンポジウムとなりました。

「西日本の基礎老化研究者と日本基礎老化学会の交流 を図る」ことはやや叶わなかった部分もありますが、結



画像 2: パネルディスカッションの風景 (第2回市民フォーラム)

果的には日本基礎老化学会から山陽小野田市民に向けて 健康啓発メッセージを送り、山口県から西日本の基礎老 化研究を発信することはできました。終わってみればい くつかの幸運に恵まれ、周囲から賛同と協力を得られた ことが今回の開催につながったと思っています。とくに 山陽小野田市のご理解と健康増進課の職員のご協力がな ければ、第2回市民フォーラムを開催することはできま せんでした。また第42回シンポジウムでは、山口東京 理科大学の地域連携研究推進課の職員の方々のご尽力 で、当日の運営とオンライン開催を円滑に進めることが できました。この場を借りて関係各所の方々に心より感 謝を申し上げます。また、この日のためにスケジュール を調整し興味深い研究の成果をご披露いただきました講 師の先生方、遠方から山陽小野田まで足をお運びいただ きました現地参加の先生方、休日の朝からオンラインで ご参加いただきました先生方に厚く御礼を申し上げま す。末筆ではございますが、学会員の皆様の益々のご活 躍をお祈り申し上げますとともに、このような一般市民 を対象とした日本基礎老化学会の取組みが継続すること を願って止みません。



画像 3: 現地とオンラインを結んだ質疑応答の様子 (第 42 回シンポジウム)